日本海スルメイカ漁場開発調査

石川 哲・佐藤晋一

発 表 誌 名

イカ釣漁場開発調査資料Ⅶ（昭和57年3月）P 89～103，昭和56年度日本海スルメイカ漁場開発調査結果

抄 録

1. 9～11月，東奥丸により利礼海域・大和堆周辺海域・津軽海峡西沖海域にわたる4航海によって，漁場環境調査・資源分布調査及び魚体測定等を行なった。
2. 暖水の流路は能登半島北西～北方海域にみられ，潮境を形成していた。
3. スルメイカの分布の中心は，暖水と冷水の接する潮境付近で，表面水温では18～20℃台の水域であった。
4. スルメイカの外套背長モードは18～24cm前後で，沖合群の方が大きい傾向があった。
5. 雌雄別にみると，雄の方が成熟が早く，外套背長モードは雌の方が大きい。成熟状態は，雌では外套背長21cm以上の個体に半熟・成熟個体がみられ，雄では外套背長20cm以上に成熟・半熟個体がみられる。